

淡江大學 101 學年度碩士班招生考試試題

116-1

系別：日本語文學系

科目：翻譯(中日互譯)

考試日期：2月26日(星期日)第3節

本試題共 5 大題， 2 頁

* 請依序作答、題号標示清楚。

一、選出適當答案完成下列日文的「諺」或「慣用句」。(各2分、共20分)

- 1、 [] 威張った態度で、人を扱き使う。
(①鼻で扱う。②目色で使う。③顎で使う。④指で指す。⑤眉を蠢かす。)
- 2、 [] 相手が非常に優れているので、それと比べることができないほど劣っている。
(①腰元にも達しない。②足首にも届かない。③手に負えない。④足元にも及ばない。⑤念頭にも置かない。)
- 3、 [] 「二兎を追う者、一兎をも得ず」と同じ意味の諺は下記のどれなのか。
(①虻蜂取らず。②泣き面に蜂。③犬猿の仲。④青菜に塩。⑤あばたも笑窪。)
- 4、 [] 「説曹操、曹操到」という意味の諺は「噂をすれば、(?)が差す」という。
(①光。②息。③煙。④声。⑤影。)
- 5、 [] 「昔身に付けた技。また、昔鍛えて、今でも自信のある腕前。」との意味の諺は、「昔とった(?)」という。
(①芸。②杵柄。③取り柄。④特技。⑤工夫。)
- 6、 [] 「自分に都合のいいことばかりを考えて、ずうずうしい様子」との意味の諺は、「(?)がいい」という。
(①効率。②物。③人柄。④運。⑤虫。)
- 7、 [] 「今まで我慢していたが、これ以上我慢できなくなる」との意味の諺は、「堪忍袋の(?)が切れる」という。
(①布。②限界。③緒。④糸口。⑤紐。)
- 8、 [] 「よく知っている人に、あまり知らない人が知ったふりをして物事を教える」との意味の諺は「釈迦に(?)」という。
(①説教。②読経。③仏法。④説法。⑤釈経。)
- 9、 [] この世の中で、実際に起こる出来事は、作り話の小説よりも不思議なものだ。」との意味の諺は、「(?)は小説より奇なり」という。
(①事情。②真実。③事実。④内実。⑤秘密。)
- 10、 [] 失敗した人には、それについて意見をいう資格がない」との意味の諺は「敗軍の将は(?)を語らず」という。
(①兵。②勇。③陣。④戦。⑤軍。)

二、將下列有關身體部位的「慣用句」譯成中文。(各2分、共10分)

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1、腹に据えかねる。 | 2、胸を膨らませる。 | 3、大目玉を食う。 |
| 4、顔に泥を塗る。 | 5、歯を食いしばる。 | |

三、將下列中文譯成日文。(各2分、共10分)

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1、打入冷宮。 | 2、燃眉之急。 | 3、無人出其右。 |
| 4、天壤之別。 | 5、左右逢源。 | |

四、將下列外來語譯成中文。(各2分、共10分)

- | | | |
|-----------------|----------------|-----------|
| 1、グローバリゼーション。 | 2、ネイティブ・スピーカー。 | 3、エコシステム。 |
| 4、クオリティ・オブ・ライフ。 | 5、カリキュラム。 | |

本試題雙面印刷

淡江大學 101 學年度碩士班招生考試試題

系別：日本語文學系

科目：翻譯(中日互譯)

考試日期：2月26日(星期日) 第3節

本試題共 5 大題， 2 頁

五、將下列分屬文學、語學、文化、翻譯、歷史的日文文章譯成中文。(各10分、共50分)

- 1、『新思潮』に載った「鼻」によって、漱石によって認められ、年少にして世に出た芥川竜之介は、佐藤春夫とならんで大正文壇における、最もはなばなしい存在であった。『新思潮』の仲間の菊池寛や久米正雄が中途から通俗小説へ転向したことによってもわかるように、気質の上からも、また、創作態度の上からも、かれらよりは、佐藤春夫、室井犀星、宇野浩二に親近感をいだいていた作家である。だから、この場合、新思潮派というごとき出身同人雑誌による分類や、新現実派、新理智派というごとき呼称による分類によって、芥川竜之介、菊池寛、久米正雄らを同一のワクでとらえる整理法ほど、あいまいなものはない。(臼井吉見『大正文学史』)
- 2、たとえば、「情けは人のためならず」という格言は、もともと、「なさけを人に与えておけば、めぐりめぐって自分によいむくいが来る」という、因果応報の思想からとも功利的な考え方からともとれる「他人に情けを与えたほうがよい」という意味で使われていた。それが、最近では、「他人に情けをかけるのは相手のためにならないからやめたほうがよい」という意味で受けとられることが多いという。これは結論だけを考えると正反対になった例であるが、格言などでは、一般に省略表現が多いので、文法的に成立する意味が複数になる場合があり、この例などでは、社会的価値観の変化から意味のずれが生じた好例である。(井口虎一郎『話し言葉・書き言葉』)
- 3、天照大神がスサノオの尊の「不善心」を問題としたのは、「わが国を奪わんと欲する」こと、すなわち「国を奪わんとする志」を推測したからであった。それは、天照大神に、従って高天原の国に害悪を加えようとする意志であるがゆえに悪心なのである。すなわち、他者の利福あるいは全体性の安全を害うものが悪心なのである。そうすれば、(中略)他者の利福、全体性の利福を欲するがゆえにヨシとせられるのである。かく他者あるいは全体性の利害がヨシ、アシ、善悪を規定するとすれば、このヨシ、アシ、善悪の意義は、利害にかかるのではなくして、他者との関係、全体性との関係にかかることと云わざるを得ない。他者の利福を害えば、たとえおのれの利福を保持しても、悪心と呼ばれる。この悪をきめるものは利福を保つか害うかではなくして、他者との関係である。(和辻哲郎『日本倫理思想史』)
- 4、巖復は翻訳の基準を「信、達、雅」の三文字にまとめたが、この基準はいまでも中国の翻訳界で高く評価され、大きな影響力を持っている。「信」とは原作の内容を正しく表現すること、「達」とは的確で分かりやすい訳文にすること、「雅」とは「信」と「達」の高度な統一で、原作の風格、気品、気持ちを鮮やかに表現すること、そして「信」、「達」「雅」は不可分の統一体であること、これが現在の一般的な解釈である。(中略)東西各国のすぐれた文学作品を大量に翻訳して中国に紹介した魯迅も翻訳の基準についての見解をたびたび発表してきたが、その見解の要旨は「およそ翻訳は二つの面に気をくばらなければならない。一つはもちろん分かりやすくすることにつとめることで、もう一つは原作の美しい姿を保つことである。(遠藤紹徳『中→日翻訳表現文法』)
- 5、一、広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ。
一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フベシ。
一、官武一途庶民ニ至ルマデ各其志ヲトゲ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス。
一、旧来ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ。
一、知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ。(「五カ条の御誓文」)